



網島街道沿いにあり、東急線・横浜市営地下鉄線日吉駅前と好立地の協生館。



協生館を南北に貫く開放的な吹抜け空間“知のパサージュ”。





藤原洋記念ホールは、ステージ背面の開閉可能の大扉を開けると、緑豊かな陸上競技場を一望できる。

慶應義塾は2008年で創立150年を迎える。10年計画で推進している創立150年記念事業のコンセプトの一つに「独立と協生」がある。独立は慶應義塾の精神にもある「独立自尊」に基づく学問と個人の独立、協生は独立した個人が他者と協力しながら生きを示している。これまで大学はややもすると閉鎖的になりがちだったが、知識に加えグローバルなコミュニケーション能力を兼ね備えた、世界レベルのリーダーとなる人材を輩出するために

は、グローバルで開かれた学塾を目指したい。この慶應義塾の構想を最大限に示した社会・地域連携拠点が「協生館」だ。

地下2階、地上7階の館内には、最上階の7階に係関係者用宿泊施設が入る。3-6階には、日本で最も長い歴史を持つビジネススクールである経営管理研究科、2008年開設のシステムデザイン・マネジメント研究科とメディアデザイン研究科、合計3つの大学院が入居する。

2階には講堂兼音楽ホール、大学内

初出店のレストランであるクイーン・アリス、大学グッズ販売等を行うコミュニケーションプラザ等が入居。

「協生館の中で最も素晴らしいのは音楽ホール」と語るのは、慶應義塾西村太良常任理事だ。約500人収容の藤原洋記念ホールは、優れた音響・情報通信設備を誇る。講演時と音楽ホール使用時の残響時間を調節する可変残響カーテンを側壁に設置。400インチスクリーンと4Kモニター(現行ハイビジョンテレビ映像の4倍の画素を表現)を装備し、



陸上競技場は、日本陸上競技連盟第4種公認で、世界初の公認人工芝投擲フィールド。

本格的なデジタルシネマ上映も可能だ。

1階には保育支援施設(ベネッセスタイルケア)、クリニック、スポーツクラブ(セントラルスポーツ)、パブ(HUB)、カフェ(タリーズ)、コンビニエンスストア(ローソン)、地下1階には水球プールを兼ねるプールを設置。クリニックは日帰り手術(デイサージャリー)と外来診療を行う施設で、慶應義塾や、協生館の健康施設等との連携を想定している。

日吉キャンパスが開設されて75年。自然の中に溶け込むこの環境を計画段

階から意識し、環境に優しい建物を認証する制度『CASBEE横浜認証制度』の第1号として、最高位「S」クラスを認証した。もともと1・2年生と慶應義塾高校の生徒が学ぶ日吉キャンパスに、新たに大学院生と地域住民が集うことで、多様な人とのヒューマンインターフェースが実現する。これまで地域において消費者だった大学を、地域の生産者の一員にしたい。協生館に込めた慶應義塾の思いが、いま動き始めた。



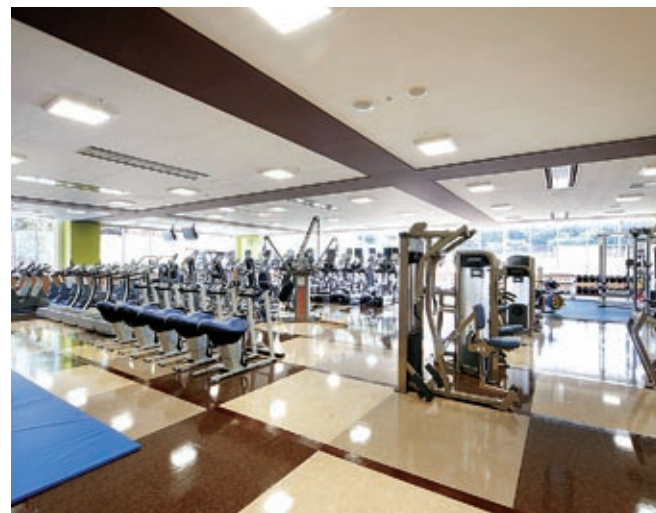
横浜市で待機児童が2番目に多い港北区での地域貢献を目指して設置したベネッセチャイルドケアセンター日吉(仮称)。(横浜市認可保育所予定)



大学キャンパス内初店になるタリーズコーヒー。オープンエアで気持ちよい店内は連日賑わっている。



エグゼクティブセミナールームは、企業経営幹部向けに経営管理研究科が行うセミナー等に使用する。



1階・地下1階に入居するセントラルウェルネスクラブの1階ジム全景。



光が差し込む水球プールを兼ねた国内公認の50mプール。プール底が上がり深さが調節できる。